

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

創立81年の歴史と伝統のもと、コミュニケーションを重視した学びの中で生徒一人ひとりの可能性を最大限に引き出し、将来の夢の実現に向けて生徒の「心幹（人間力・教養力・協働的探究力）」を育てます。「君にしかできない夢（こと）が泉大津（ここ）にある」をキャッチフレーズとし、将来の夢の実現に向けて取り組む生徒を育成します。

- 1) 他者とより良い関係を築きながら、責任を持って役割を果たす自律・自立できる生徒
- 2) 基礎となる幅広い教養を身につけ、日常場面で活用できる生徒
- 3) 自己と向き合い、他者と協働しながら、粘り強く課題解決を図ることができる生徒

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 「わかる授業」を土台に、「主体的・対話的で深い学びを育む授業」づくりをめざす

ア 「主体的・対話的で深い学びを育む授業」づくりの実践を進める。（学校全体の取組みとして実施する）

- ・単元の逆向き設計による本質的な問いをふまえた授業実践を進める。
- ・パフォーマンス課題の実践をチームとして進め、実践事例集を積み上げ校内で共有を進める。
- ・1人1台端末を活用した協働的な授業実践を進める。

イ IMPT（泉-OHTSU Method プロジェクトチーム）を中心に教育内容の充実をめざした取組みを進める。

3つの観点別評価を踏まえた授業改善・総合的な探究の時間の地域との連携充実、生徒育成の教育課程（教科・探究の時間・トータルキャリアプラン・学校行事など）、のキャリアマネジメントを推進する。学年主任間会議を設置し、生徒育成の教育課程の円滑な実施と内容の継承・充実につなげる。あわせて、資質・能力（3つのキー・コンピテンシーと9つのターゲット）の評価軸を組み入れ、育成サイクルの構築をめざす。

※ 授業アンケートの平均点（R1=3.09、R2=3.15、R3=3.22）を令和6年度までに3.25以上とする。

ウ SSPC（スマートスクールプロモーションコーディネーター）を中心に組織的に、1人1台の端末活用環境を整え、個別最適な学びと協働的学びの充実を進める。

※ 学校教育自己診断（生徒）「情報機器の利用などの満足度」（R1=63%、R2=65%、R3=64%）を令和6年度には70%以上をめざす。

(2) 進路目標を達成できる学力を3年間で育成する

ア 基礎学力の定着と進路実現をめざした補習・講習の充実を図り、外部検定試験への挑戦を促す

- ・放課後や長期休業中の講習・補習の一層の充実
- ・外部検定試験の挑戦と合格を強力にサポート

※ 学校教育自己診断（生徒）「生徒の講習満足度」（R1=70%、R2=62%、R3=54%）を令和6年度には70%以上をめざす。

※ 外部検定試験受験者と合格者を令和6年度までに20%以上増やす。

2 「高い志」を育み、「将来の夢」を実現

(1) 3年間を見通した志学、キャリア教育、探究型学習、人権教育を連動させた生徒育成プログラム（＝トータルキャリアプラン）の実行

ア 生徒が自らの生き方を考え、よりよく課題を解決できる力を育成する「総合的な探究の時間」の取組みを進める。

(2) 生徒一人ひとりが希望する進路を実現する為の組織的・計画的な進路指導

ア 学年ごとに適切な進路情報の提供を行い、自己診断（生徒）進路情報肯定率を令和6年度までに82%（R1:79%、R2:80%、R3:81%）以上をめざす。

イ 学年・教科・分掌間の連携を図り、講習や面接指導等、希望する進路に応じた支援の充実。

※ 3年生4月当初の進学希望先調査を達成できた生徒の割合（R1:97%、R2:97%、R3:98.1%）を令和6年度までに99%以上をめざす。就職内定率100%を維持する。

3 豊かな心の育成、自主性と規範意識の醸成

(1) 生徒の規範意識を醸成し、個々の生徒への支援体制を強化する。

ア 自主的に規律を守り、自らの行動を律する人をめざし、基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。

イ 全教員がカウンセリングマインドを持って生徒指導にあたる。

ウ 支援教育コーディネーターを中心に、生徒一人ひとりへの支援とサポート体制を充実する。

※ 学校教育自己診断（生徒）「生徒指導への満足度」（R1生徒:54%、R2生徒=57%、R3生徒=54%）を令和6年度までに60%以上とする。

※ 自己診断（生徒・保護者）「教育相談への満足度」（生徒・保護者R1:60・85%、R2:61・85%、R3:63・81%）を令和6年度までに生徒・保護者65%・85%以上とする。

(2) 特別活動や生徒会活動を通じて、生徒の自己肯定感を育み、連帯意識や公共精神を培う

ア 行事や生徒会活動、部活動等を通じて、集団の中で他者と協働する力を育む。

※ 自己診断（生徒）「学校行事への満足度」（文化祭・体育祭R1:81・84%、R2:83・1%、R3:86・85%）を令和6年度までに86%以上とする。（R2体育祭は、11月順延のためアンケート実施できず）

※ 部活動加入率（R1:55%、R2:44%、R3:54%）を令和6年度まで50%以上を維持する。

4 安全・安心を土台にした総合的な学校力の向上

(1) 生徒が安全・安心に学校生活を過ごせる環境づくりの充実

ア いじめ・差別をしないさせない意識の醸成。教育相談体制の充実を進め、保護者や関係機関と連携を強化する。

イ 保健・安全指導を徹底して、事故防止の取組みを進める。

ウ 大規模災害への備えと緊急事態発生時の迅速に対応できる校内体制の強化を図る。

エ 個人情報の適正管理と個人情報保護の精神を徹底する。

オ 教職員の多忙化解消に向け、業務の精選と校務運営の効率化を進める。

※ 自己診断（生徒）「人権に関する指導」（R1:90%、R2:87%、R3:92%）を令和6年度まで88%以上を維持する。

※ 自己診断（教員）「各種会議は教職員の意思疎通や意見交換の場として有効に機能」を（R1:51%、R2:56%、R3:66%）令和6年度までに65%以上を維持する。

(2) 本校の教育活動を積極的に発信し、広報活動の充実を図る

ア 中学校、保護者、教育関係者向けの情報発信と緊急時の情報発信の充実。

イ 生徒体験型の中・高・大（専）の交流・連携を進め、本校の魅力を発信する場とする。

※ 学校説明会参加者アンケートの肯定的評価（中学生）（R1:92%、R2:95%、R3:89%）を令和6年度まで90%以上を維持する。

(3) 次世代を担う教員の指導力の総合的な育成

ア 次世代の新たな学びを育成する校内研修の充実と校外研修への参加と校内共有。

イ 初任から10年目まで連続した校内育成体制の充実。

※ 学校教育自己診断（教員）「経験の少ない教職員の育成」の肯定率を（R1:62%、R2:69%、R3:72%）を令和6年度までに80%以上をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【中期的目標の項目に沿って結果分析】</p> <p>1 IMPTが推進する、本校の「ねがい」に向けた教育活動の充実をめざし、ICTや1人1台端末を活用する授業の増加、授業内容の工夫、新カリ実施にともなう教科内での情報共有、学校全体での研修等により、授業充実が図られている。また、総合的な探究の時間では地域連携の充実ができた。しっかり振り返りを行い、次年度につなげていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「泉大津高校の『ねがい』」に向かう教育活動を行っている（新規 生徒 69% 保護者 82% 教職員 82%） ・情報機器の利用や体験的な授業の充実（生 64%⇒69%） ・1人1台端末の活用（生 新規 67%） ・教え方に工夫している先生が多い（生 新規 72%） ・教育活動について日常的に話し合っている（教 88%⇒94%） ・総合的な探究は協働的探究力を養う（生 64%⇒72%） ・授業以外の講習は満足できる（生 54%⇒71%） <p>2 トータルキャリアプランを実行し、生徒の進路実現に尽力している。保護者の理解も得ている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路の情報を知らせてくれる（生 81%⇒82%） ・将来の進路や生き方について考える機会がある（生 88%⇒91%） ・適切な進路指導を行っている（保 84%⇒87%） <p>3 行事の満足度が大きく下がっている。生徒が主体的に動いていないように見受けられるので、次年度に向けて強化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導への満足度（生 54%⇒55%） ・相談できる（生 63%⇒64% 保 81%⇒86%） ・学校行事への満足度（生 体育祭 85%⇒80% 文化祭 86%⇒74%） <p>4 学校全体で生徒を支援する体制が充実してきている。首席をはじめ、教職員全体で初任者等の育成に尽力したり、教職員が各々の持ち場で力を発揮したり、また助言、協力しあうことで、働きやすい職場づくりができてきている。今後、業務の精選、スリム化を進め、教職員の多忙化の解消に取り組む。HP等を活用し、広報活動を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権について学ぶ機会がある（生 92%⇒92%） ・いじめなど困っていることに真剣に対応してくれる（生 74%⇒78%） ・適正・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担で、教職員が意欲的に取り組める環境にある（教 56%⇒73%） ・各種会議が教職員間の意思疎通や意見交換の場として有効（教 66%⇒76%） ・気軽に相談できるような職場の人間関係（教 81%⇒88%） ・事故、災害等に適切な対処ができる役割分担の明確化（教 84%⇒73%） ・経験の少ない教職員の育成（教 72%⇒94%） ・広報活動の充実（教 91%⇒75%） 	<p>【第1回】令和4年7月14日（木）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年間のコロナ禍の影響もあるかもしれないが、部活動加入率が低いように思う。働きかけが必要ではないか。 ・観点別学習状況による評価では評価基準が厳しくなるのではとの心配はあるが、授業や評価方法の振り返りを行い、生徒の学びのための評価となるように努めてもらっている。 ・観点別評価にかかる保護者説明については、懇談時に生徒自らが記載した自己の評価に対する振り返りシートを使って丁寧に説明するなど、適切に行っていると感じた。 <p>【第2回】令和4年12月15日（木）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業見学した先生は1人1台端末を活用して授業を行っており、全体でも3～4割程度の先生が積極的に活用している状況である。生徒の学びには活用すべきものではあるが、教員の負担にならないように工夫が必要だと考える。 ・全国的に不登校の生徒数が増えているが、学校教育自己診断の生徒の結果でもわかるように、教育相談・支援委員会を中心として、保護者を含めて丁寧に対応していただいている。今後とも続けていただきたい。 ・学校教育自己診断の生徒の結果で、文化祭の満足度が大きく下がっている。生徒が中心となって学校行事を企画、運営していく仕組みを考えてもらいたい。 <p>【第3回】令和5年3月1日（水）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R4学校経営計画の達成状況について、よくがんばっていると思っている。特にIMPTを中心とした授業充実については、校内研修、授業見学等の取組みが進んでいる。 ・中高連携が進んできており、出前授業や授業交流で、お互いのよいところを学んでいる。 ・行事の評価が下がっているのが残念。生徒が主体的に楽しいと思える行事になるよう、PTAも積極的に関わってほしい。 ・人権意識の向上、遅刻回数の減少等、生徒がよくなっていると思う。 ・観点別評価での大学入試について、大学でも検討しなければならぬ。桃山学院教育大学へは問題提起したが、今後も取り組んでいく。 ・R5学校経営計画の「めざす学校像」「中期的目標」については承認。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R3年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びを育む授業づくり</p> <p>ア 主体的・対話的で深い学びの授業実践</p> <p>イ 「総合的な探究」「観点別評価」等の充実</p> <p>(2) 進路目標を達成できる学力の育成</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒の主体的・対話的で深い学びをめざした授業実践を積み上げる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元の逆向き設計による本質的な問いをふまえて授業実践を進める。・パフォーマンス課題の実践をチームとして進め、実践事例集を積み上げ校内で情報共有する。 <p>イ・IMPT（泉-OHTSU Method プロジェクトチーム）を中心に教育内容の充実をめざした取り組みを進める。3つの観点別評価を踏まえた授業改善・内規の整備、生徒育成の教育課程（教科・探究の時間・トータルキャリアプラン・学校行事など）のカリキュラムマネジメントを推進する。・資質・能力（3つのキー・コンピテンシーと9つのターゲット）の評価軸を組み入れ、育成サイクルの構築をめざす。</p> <p>ウ・「総合的な探究の時間」での泉大津市など近隣関係機関との連携と内容の充実を図る。</p> <p>エ・SSPC（スマートスクールコーディネーター）を中心に組織的に1人1台の端末活用の環境を整え、個別最適な学びと協働的な学びの充実を進める。</p> <p>(2)</p> <p>ア・放課後や長期休業中の講習・補習の充実（進路指導部と教務部が連携して推進する）</p> <p>イ・大学検定試験をはじめとして入試を意識し、外部検定試験の挑戦を促し、合格をサポートする。（英検、漢検、数検（R3：0名、38名、22名）の受験者の支援</p>	<p>(1)</p> <p>ア・授業充実研修2回以上〔6回〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケート平均3.22以上〔3.22〕 ・パフォーマンス課題実践事例集を校内で情報共有 <p>イ・評価軸と育成サイクルの構築</p> <p>ウ・1・2・3年で実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己診断(生徒)「総合的探究が人生に役立つ」65%以上〔64%〕 <p>エ・1人1台端末活用授業の公開授業を2回実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・IMPT、探究委員会の成果を授業充実研修で実施 <p>(2)</p> <p>ア・学校教育自己診断(生徒)「講習満足度」65%以上〔54%〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期休業中講習参加者50%以上〔14%〕 <p>イ・英検、漢検、数検：20名以上、20名以上、5名以上〔0名、38名、22名〕</p>	<p>(1)</p> <p>ア・授業充実研修を8月と11月（2月予定）に行った。いずれも9割近い教員が参加し、生徒の学びについて深い意見交換をした。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケート平均3.23 (○) ・上記研修の際、教科代表から提出された授業実践の単元設計シートを資料として共有した。(○) <p>イ・CAPアンケート(生徒)、取組みふりかえりシート(教員)を活用し、PDCAサイクルを構築。(○)</p> <p>ウ・総合的な探究の時間で泉大津市など近隣関係機関との連携(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年：泉大津市危機管理課の協力で近隣企業6社による商品開発の講話。 2年：泉大津市と大阪大学との連携による防災探究。 3年：近隣大学、専門学校、企業等によるキャリア教育。 <ul style="list-style-type: none"> ・自己診断(生徒)「総合的探究は協働的探究力を養うのに役立つ」72%(◎) (質問を少し変更している) <p>エ・アの授業交流において、端末活用授業の公開授業を理科2回、国語・書道各1回実施(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業充実研修3回(8月、11月、2月)実施(アに同じ)(○) <p>(2)</p> <p>ア・自己診断(生徒)「講習満足度」71%(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期休業中講習参加者14%(△) <p>イ・英検、漢検、数検：0名(△)</p>

府立泉大津高等学校

2 「高い志」を育み、「将来の夢」を実現	<p>(1) 3年間を見通した志学、キャリア教育、人権教育を連動させた生徒育成プログラム実行</p> <p>(2) 生徒一人ひとりが希望する進路を実現する為の組織的・計画的な進路指導</p>	<p>(1) ア・トータルキャリアプランの精選と内容の充実はかる。「総合的な探究の時間」を連動し、生徒の課題解決能力を育て、自らの夢を描き、実現する力を育む。学年主任間会議において生徒育成の教育課程の継承・発展と検証を実施する。</p> <p>(2) ア・トータルキャリアプランを通じて、学年ごとに適切な進路情報の提供を行い、生徒の進路実現の支援を行う。 イ・学年・教科・分掌間の連携を図り、講習や面接指導等、希望する進路に応じた支援の充実で進路の実現を図る</p>	<p>(1) ア・1、2、3年生「総合的な探究」の実施。探究委員会・学年主任間会議において検証の実施</p> <p>(2) ア・自己診断(生徒)「進路情報」肯定 82%以上 [81%]</p> <p>イ・3年4月段階の進路希望の実現 97%以上の維持 [98.1%]、就職内定率 100%維持 [100%]</p>	<p>(1) ア・自己診断(生徒)「総合的な探究の時間は協働的探究力を養うのに役立っている(新規)」72% 自己診断(教員)「総合的な探究の時間は生徒にとって有益である」R3:56%→R4:70%と、教員の「総合探究」に対する重要性の意識は高まってきている。 探究委員会、学年主任会議において、本年度のフィードバックを行い、次年度へ生かしている。(◎)</p> <p>(2) ア・進路先パート別の進路指導で、適切に情報発信ができた。自己診断(生徒)「進路情報」肯定 82%(○) イ・進路希望の実現 97.9%、就職内定率 100%(○)</p>
3 豊かな心の育成、自主性と規範意識の醸成	<p>(1) 生徒の規範意識を醸成し、個々の生徒への支援体制を強化</p> <p>(2) 特別活動や生徒会活動を通じて、生徒の自己肯定感を育み、連帯意識や公共精神を培う</p>	<p>(1) ア・身だしなみの意義を理解し、全校一致の目標(頭髪・制服等)を生徒と共有し、規範意識を醸成する ・問題行動等を生徒自らが考え、学校生活を落ちついた中で過ごせる支援の実施 ・自転車通学者のマナー指導での警察・外部と連携と体験的な交通安全講習会の実施 ・全生徒への「薬物乱用防止教室」の取組みと外部連携</p> <p>(2) 行事や生徒会活動、部活動等を通じて、集団の中で他者と協働する力を育む ア・体育祭、文化祭を生徒会の自主的運営に委ねる ・生徒会・各クラス委員が連携し、教員とともに、「あいさつ運動」を継続展開し、あいさつのできる学校をめざす。 イ・生徒会が中心となり入学時からの取組みの充実を行い、部活動加入率を上げる ウ・生徒が自主的清掃活動に取り組むよう保健部が中心となって啓発活動を行う エ・さまざまなボランティア活動情報を提供し、参加生徒を募り参加させることで、自尊感情を高め、他者尊重の精神の涵養から社会に貢献できる人材育成を図る</p>	<p>(1) ア・年間遅刻件数の減少 R3:3000件以下の維持 [2217件] ・体験的交通安全講習会1回以上 [1回] ・「薬物乱用防止教室」の取組み実施 1回以上 [1回] ・自己診断(生徒)「生徒指導への満足度」肯定 58%以上 [54%]</p> <p>(2) ア・自己診断(生徒)「生徒会活動」肯定率 65%以上 [64%] ・自己診断(生徒)「行事の満足度」文化祭・体育祭 R4=85, 85%以上 [86・85%] ・自己診断(生徒)「高校に入ってからあいさつするようになった」を 78%以上 [77%] イ・1年生の部活動加入率 55%以上 [54%] ・小・中学校との交流の種目・回数を増やす 6クラブ、25回以上 [5クラブ、18回] ウ・自己診断(生徒)「清掃活動を積極的に行う」75% [72%] エ・ボランティア参加生徒2事業、20名以上 [1事業、10名]</p>	<p>(1) ア・生徒指導部を中心とした指導により、年間遅刻件数 1853 件に減少。(◎) ・泉大津警察の協力で、自転車等についての交通安全講習会を実施。また、通学マナー指導に、警察、市役所の協力を得た。(○) ・泉大津警察の協力で、「薬物乱用防止教室」の取組みを実施 (○) ・自己診断(生徒)「生徒指導への満足度」肯定 55%(△)</p> <p>(2) ア・自己診断(生徒)「生徒会活動」肯定率 59%(△) ・自己診断(生徒)「行事の満足度」文化祭:74%・体育祭:80%(△) ・自己診断(生徒)「高校に入ってからあいさつするようになった」を 76%(△) イ・1年生の部活動加入率 38%(△) ・小・中学校との交流を4クラブで9回実施した。(△) ウ・自己診断(生徒)「清掃当番など美化活動に取り組んでいる」81%(○) エ・小津川清掃、里山清掃、泉大津市との防災ボランティア等、参加生徒5事業、150名以上 (◎)</p>

府立泉大津高等学校

<p>4 安全・安心を土台にした総合的な学校力の向上</p>	<p>(1)生徒が安全・安心に学校生活を過ごせる環境づくりの充実</p> <p>(2)本校の教育活動の積極的発信と広報活動の充実</p> <p>(3)次世代を担う教員の指導力の総合的な育成</p>	<p>(1)いじめ・差別をしないさせない意識の醸成。支援教育コーディネーター、教育相談委員長を中心にコア会議を定期的実施し、機動性のある教育相談体制を構築する。SC・SSWとの相談を充実、ケース会議を行い、福祉機関などと連携をはかって具体的な支援を行う。</p> <p>ア・人権学習として、生徒の心に響く人権公演を企画する。グループワークを取り入れるなど参加型の人権学習の取組みを進める。</p> <p>イ・保健・安全指導を徹底して、事故防止の取組みを進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱中・感染症、交通安全、薬物乱用、防災の指導の徹底と外部専門家との連携 ウ・大規模災害への備えと緊急事態発生時の迅速に対応できる校内体制の強化、安否確認等のBlog、Eメール活用 エ・個人情報の適正管理と個人情報保護の精神を徹底する。 <p>オ・学級減と教職員の多忙化解消に対応した分掌業務のスリム化を進める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革としての分掌業務の精査 ・教員の負担感の軽減と経験の少ない教員への支援 <p>(2)</p> <p>ア・中学校、保護者、教育関係者向けの情報発信と緊急時の情報発信の充実（Eメッセージと緊急掲示板ブログ）</p> <p>イ・体験型の中・高・大（専）等との交流・連携を進め、本校の魅力を発信する場とする</p> <p>(3)</p> <p>ア・個別最適な学びと協働的学びの校内研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・IMPT（泉-OHTSU Method プロジェクトチーム）、探究委員会が中心となり、教務部と連携し、「観点別評価」「総合的な探究」「1人1台端末活用」の研究と実践、校内での共有 ・新学習指導要領等に係る校外研修への参加と校内共有 <p>イ・初任から10年めまでの校内育成体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター研修を軸に研究授業と協議の実施 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己診断（生徒）「気軽に相談に乗ってくれる」63%以上〔63%〕 ・自己診断（生徒）「学校はいじめに真剣に対応」74%以上〔74%〕 <p>ア・人権研修1回以上〔1回〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己診断（生徒）「人権を学ぶ機会ある」88%以上〔92%〕 <p>イ・各指導1回以上〔1回〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部専門家活用2件以上〔1件〕 <p>ウ・教員体制の確認と連絡方法確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Blog、Eメール活用充実 <p>エ・校内研修2回以上〔1回〕</p> <p>オ・業務内容の精選</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校休業日（夏・冬期）とクラブ休業日104日の完全実施 ・自己診断（教）「各種会議は教職員の意思疎通や意見交換の場として有効に機能」肯定68%以上〔66%〕 <p>(2)</p> <p>ア・校長ブログ150回以上〔150回〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己診断（生徒・保護者）「学校HPをよく見る」40%以上〔34%〕 ・Eメッセージ登録85%以上維持〔97%〕 <p>イ・中学校出前授業の1回実施〔1回〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多彩な学校交流3件以上〔0件〕 ・学校説明会アンケート参加中学生の肯定意見90%以上〔89%〕 <p>(3)</p> <p>ア・IMPT、探究委員会などの成果発表を授業充実研修として実施2回〔6回〕</p> <p>イ・センター研修と連携による研究授業と協議の実施</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己診断（生徒）「気軽に相談に乗ってくれる」64%（○） ・自己診断（生徒）「学校はいじめに真剣に対応」78%（◎） <p>ア・LGBTをテーマに歌と講話で講演していただいた。また3年生は同和問題・拉致問題に取り組んだ。（○）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己診断（生徒）「人権を学ぶ機会ある」92%（○） <p>イ・AED講習1回、避難訓練2回（○）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防、警察等の活用4件に加え、福島県の被災者の方に講演をしていただいた。（○） <p>ウ・防犯・防災計画や危機管理マニュアルの周知、教職員のEメッセージの参加、安まちメール等の転送を実施（○）</p> <p>エ・個人情報にかかる事案が3件生起、その都度研修を実施した。また、教育庁からの失敗事例の周知も行った。（○）</p> <p>オ・各分掌、委員会で検討した。（○）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校休業日（夏・冬期）とクラブ休業日104日の完全実施（○） ・自己診断（教）「各種会議は教職員の意思疎通や意見交換の場として有効に機能」肯定76%（◎） <p>(2)</p> <p>ア・校長ブログ48回（△）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己診断「学校HPをよく見る」生徒17%・保護者35%（△） ・Eメッセージの登録96%、緊急時の連絡等に活用できた。（○） <p>イ・初任者による出前授業を実施。事前に中学校の授業見学をするなど、初任者の学びとなった。（○）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災学習（大阪大学・桃山学院大学）・授業連携（泉大津市立中学校3校）・家庭科実習（大調・辻調）7件実施（◎） ・学校説明会アンケート（12月実施分）肯定的意見92.6%（○） <p>(3)</p> <p>ア・授業充実研修を8月と11月に実施、年度末振り返り1回、夏休み読書会（事例検討会）4回（○）</p> <p>イ・初任者の校内研修を首席がコーディネートして時間割に組み込み、分掌、委員会、事務室、SC、SSW等から話を聞いたことで、学びにつながった。（◎）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターメディアイト研修やアドバンス研修を活用して、校内研修を行った。人権委員長が人権研修を行う際、初任者3名のフィールドワークの報告を入れ、教職員に情報共有できた。（○）
------------------------------------	--	---	---	---